パシクル カント

～人と野生生物がともに
健康にくらせるまちづくり～

人と野生生物の関わりを考える会
2011年vol.2

パシクルはアイヌ語で"カラス"
カントは"空・天空" 空を見上げたとき
カラスが飛んでいる
そんな普通のことが幸せなのじゃ。

一つの地球、一つの健康

～人と野生生物の関わりを考える会が目指すもの～

私たちが毎日食べている魚や野菜などの自然食材は、自然からの恵みです。これは、地球上の様々な生き物がバランスを保ちながら共に生きている（生物多様性）おかげ。私たち人間を含む様々な生き物が生態系で役割を果たすことで、私たちは、自然から様々な恩恵（生態系サービス）を受け続けることができます。

動物が生きていくために、植物、森は欠かせません。森のはっぱが地面に落ち、土に栄養を与えます。その栄養は、雨水とともに川から海へ流れ、植物性プランクトンやコンブなどの海草を育てます。そして、動物性プランクトンを育て、小魚や貝などの生き物を育てます。さらに、サケやマグロなどの大きな魚を育てます。つまり、豊かな森が魚や貝などの生き物を育て、豊かな資源を産み出します。私たちは、森から、酸素や水の他にも、これらの自然からの恵みをいただいているわけです。

カラスは、人が出したゴミを荒らす悪者として嫌われることが多い動物です。このたぶん一番嫌われている最も身近な野生動物だって、私たちのくらしを支えています。カラスは、森や街の虫や動物の死体などを食べる“地球のおそうじやさん”です。カラスがいなくなると、虫やネズミなどが増えすぎ、木が枯れ、森は不健康になってしまうでしょう。そう考えると…、カラスが森の健康を守っていると言っても言いすぎではありません。ヘビも嫌われ者ですが、ネズミを食べて数が増えすぎないように保つ役割があり、やはり森を守っています。

すると、すると…　そうです！　カラスがいるおかげで、森の健康が守られ、私たちも大地、川や海から恵みをいただけているのです。カラスにおそわれると言いますが、カラスが人に攻撃するのは、繁殖期だけで、自分たちのヒナを守るためです。カラスに街を汚されると言いますが、私たちがゴミをちゃんと出せば荒らされません。むしろ、虫や生き物の死体などを食べ、街をきれいにしています。

自然環境は絶妙なバランスで健康に保たれています。ミミズ、オケラ、アメンボだって、カラス、ヘビ、毛虫だって、地球の健康に必要です。私たちは、特定の動物、特にハクチョウ、スズメやキツネなどの“かわいい”動物に餌を与え、やさしくした“つもり”になります。でも、そのえこひいきは、生態系のバランスを崩し、行動生態を変えてしまい、人とのトラブルや感染症を発生させるなど多くの問題を引き起こします。

野生動物は、人間に餌をもらわなくても、厳しい自然の中、自分で餌をとってたくましく生きています。野生動物も人も平和にくらすためには、私たちが野生動物と適度な“距離感”を保つことが必要です。大好きでもっと近づきたいのだけれども、そっとかげから温かく見守る…、のが本当の愛情ではないでしょうか？一番大切なのは、野生動物や自然への“感心・興味”だと思います。そして、自然について広く“知る”ことです。

昔からずっと身近で共に暮らしてきた生き物たちが健康で生き続けられる地球環境がある限り、私たち人間も健康に生き続けられるでしょう。私たちの身近な自然環境は、水（海）、空気（空）で地球全体とつながっています。そして、もう一つ、人間同士でもつながっています。私たちが身近な自然環境を大切にしていけば、人間同士で力を合わせれば、北海道から日本へ、日本から北極、南極、ボルネオ、アフリカへその想いは伝わっていくはずです。

みんなで、一つの地球、一つの健康を守って行きましょう！考える会で共に活動しましょう！

福井　大祐（人と野生生物の関わりを考える会事務局長、旭川市旭山動物園獣医師）

人と野生生物の関わりを考える会

野生動物に餌をあげたことはありますか～

餌をもらった動物のその後のくらしを考えたことありますか

私たちは、野生動物と人が共にくらすためにどうすればよいかを考える市民グループをつくりました。（平成20年6月）

基本趣旨　旭川を流れる永山新川における、カモ、ハクチョウ類への餌やりや、スズメの大量死を一つのテーマに人と野生動物の関わりについて考え行動する市民組織。

目的　身近な自然を心から愛し、人と野生生物のお互いが快適で幸せな自然環境と人間社会を創る。

構成　野鳥の会、自然保護団体、行政（旭川河川事務所、上川総合振興局）旭川市、旭山動物園

会員　小学生から大人まで100名

活動

- 自然観察会
- 餌付けが引き起こしうる問題点や高病原性鳥インフルエンザなどの感染症についての勉強会
- 餌やりや餌台のマナーについてのチラシ配布
- 小学校への出張授業（餌やり問題、外来種）
- 楽しく学ぼう野生生物"パネルシアター"を用いて訪問活動
- 小学生を対象に旭山公園、旭山動物園にて野外での総合学習会
- 外来種アズマヒキガエルを捕まえて学ぶ会
- 永山新川にて清掃活動、水生生物による水質調査（旭川河川事務所の協力のもと）
- 会報誌"パンクルカント"の発行

キーワード　野生生物への関心と距離感

人と野生生物がともに健康にくらせるまちづくり

平成23年度旭川市の協働街づくり事業として旭山動物園と連携して活動をしています。

○今後の活動予定
- 平成24年1月　小学生を対象に自然や身近な動物についての体験型総合学習会
- 聴いて考えるフォーラム～かけがえのない一つの地球つながっている一つの健康のお話
  "パネルシアター楽しく学ぼう野生生物"
  吹奏楽せせらぎウインドアンサンブルの演奏　を予定しています。

みなさまの参加を心よりお待ちしています。

原田　E-mail／wakka2011@yahoo.co.jp　TEL090-3893-4877

フェンス
生き物思いやり線

H23年10月9日 市民のみなさんとパネルを作成しました。

フェンス"生き物思いやり線"

- 場所　牛朱別大橋と第一北永橋の間の河川敷にあります。
- 学習のためのパネルが貼ってあります。＝フェンスには、ハクチョウやカモなどの野鳥の生態や人との関わりについて書かれていて自然観察会が行なわれています。

永山新川では、ハクチョウやカモなどの野鳥に対する餌やりが行なわれて来ました。餌やりに伴い、残り餌や一カ所に集まった野鳥の糞が河川を汚染し、またゴミの不法投棄が周囲の自然環境に悪影響を及ぼしています。さらには、野鳥から高病原性鳥インフルエンザなどの感染症が起こりやすい状況にあり、集まった野鳥や周辺の養鶏場への影響が懸念されています。

「人と野生生物の関わりを考える会」では、これまでに自然観察会や勉強会を重ね野生動物の餌付けが引き起こしうる環境問題について考えてきました。その結果、日本財団の助成を得て、旭川河川事務所にも協力して頂き平成22年12月に永山新川にフェンス「生き物思いやり線」を設置することができました。

目指すゴール

物理的な壁として餌やりができないようにすることではなく心理的な"境界線"として餌やりを抑制する気持ちを育むことが目的です。
自然認識を育てる普及空間になることを願っています。

人が野生動物を気づかい離れてそっと見守る。

「人と野生生物の関わりを考える会」

白木雪乃さんからの命の大切な話

旭山動物園飼育展示係でアザラシと両生爬虫類舎を担当している白木雪乃さんから命の大切なお話を聴きました。
いつも優しい笑顔とバイタリティあふれた仕事への姿勢そして野生動物と自然環境への熱いおもいは、私たちに命の大切さを伝えてくれます。

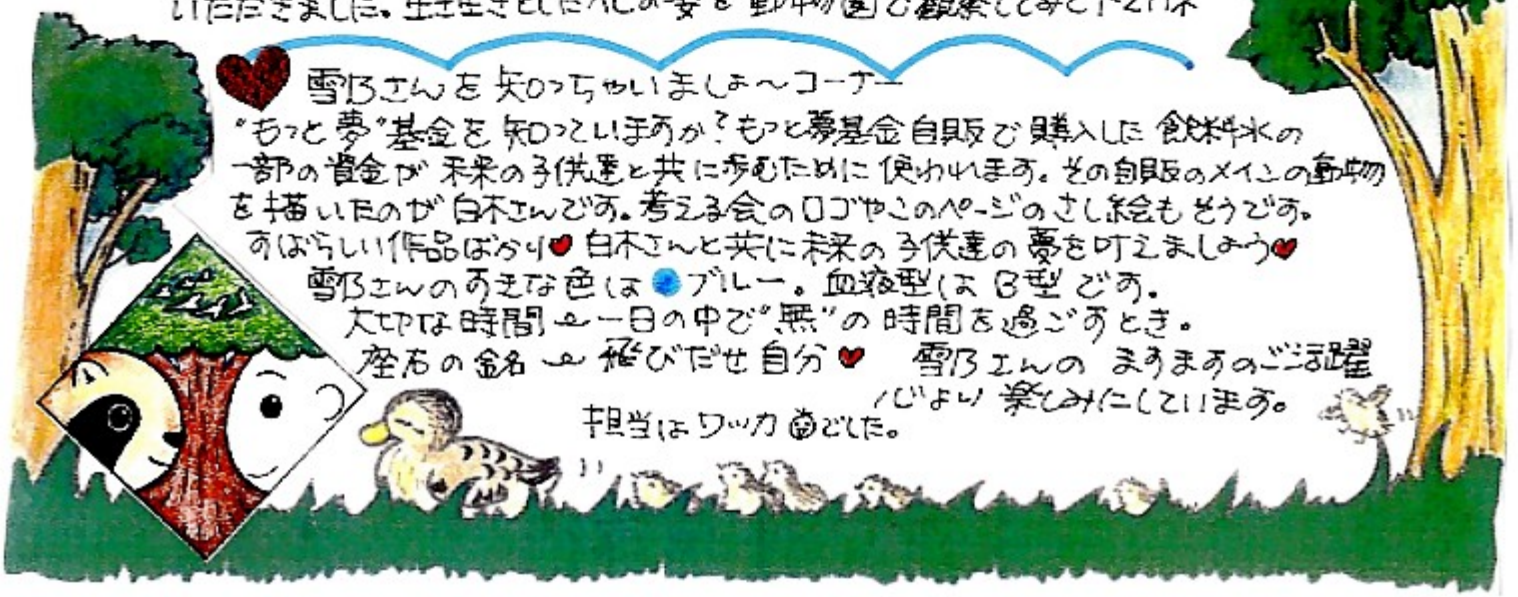
身近な野生動物について伝えたいこと。

人生の目標は身近な野生動物の今後、そして未来について安心して暮らして行ける場所を残すこと。そして自分に出来ることは何かを日頃から考え一人でも多くの人に命の繋がりを伝えて行きたいという白木さん。
フクロウやキタキツネなどの野生動物たちの住む場所を守るということは、命を支えることになり地球全体に水や空気が繋っているということを知ってほしいという先には、多様な自然を守るため白木さんの強い意志があるのだと感じました。

両生爬虫類舎の展示の工夫も隠れることがすきな個体には隠れ家を造りワクワクしながら捜してほしいと、そして自然界での様子をわかりやすく工夫して展示しているそうです。
動物園に来て楽しかっただけではなくて見て感じて思い出して そして身近にいるけれど見つけにくい生き物だけれど、こんな場所に居て生きていることを知ること、じっくりと見ていただき身近な野生動物や自然に関心を持っていただく足がかりになればと思っているんだそうです。
ずっと両生爬虫類の担当を続けて行きたいと笑顔でお話をいただきました。 ステキです。

ヘビについて聞きました。

危いとか毒があるとかという声を聞きますが、むやみに怖がることはないそうです。また国道で毒をもつヘビはニホンマムシだけなんであって！
人から好かれず、いなくなっても気づかれないヘビも私たちの身近に共存しています。興味をもち見ることから知ることに繋っていくのだと教えていただきました。生き生きとしたヘビの姿を動物園で観察してみて下さいネ



雪乃さんを知っちゃいましょ～コーナー

"もっと夢"基金を知っていますか？もっと夢基金自販で購入した飲料水の一部の資金が未来の子供達と共に歩むために使われます。その自販のメインの動物を描いたのが白木さんです。考える会のロゴやこのページのさし絵もそうです。
すばらしい作品ばかり 白木さんと共に未来の子供達の夢を叶えましょう
雪乃さんのすきな色は ブルー。血液型はB型です。
大切な時間 一日の中で"無"の時間を過ごすとき。
座右の銘 飛びだせ自分 雪乃さんのまるまるのご活躍 いつより楽しみにしています。
担当はワッカ園でした。

アライグマの捕獲に立ち合い思うこと

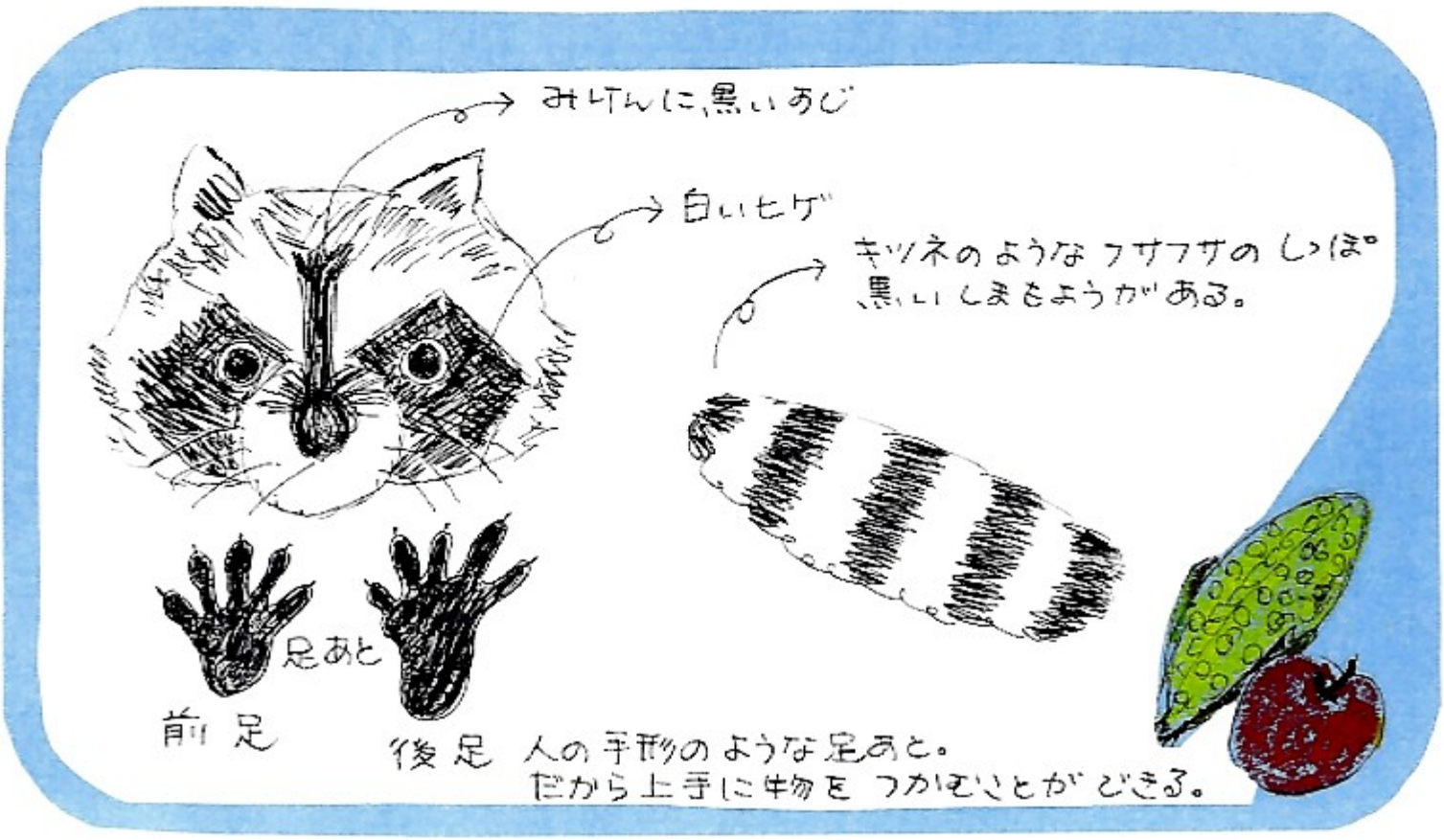
私は、9月18日にアライグマの捕獲の立ち合いのために現場に向った。
"外来種アライグマを学ぶ会"に参加して資格認定を受けて「人と野生生物の関わりを考える会」による「外来種アライグマ捕えて学ぶ会」捕獲の現場に立ち合うことができた。
私にとって心に残る貴重な体験となった。本来アライグマは北アメリカに生息しているのに～何故旭川近郊に生息するようになったのだろう～繁殖力が異常に強く、どんどん数を増やし農作物の被害を拡大傾向にあるのだという。
捕獲の現場は神居町富沃のわくわくエッグ館から数分車を走らせて山の中に入った。これから捕獲されたアライグマは安楽殺処分という道筋となる。
ドキドキしていた。胸がいっぱいになった・・・でも目を逸らさずに立ち合うことを決めていた。網わなの中にアライグマの姿が見えた。でも動かない!!
すでに息絶えていたオメスのアライグマだった。子を産み育て一生懸命に生きてきたのだろう。この北の大地に生息するはずのないアライグマが目の前にいる。
この個体の祖先は、人にペットとして飼われ、そして捨てられ野生化したのだろう。

この命をどう受けとめるか、この現状をどう伝えるか～悩しさが込み上げる。

― 尊い命 どんな命にも生きていたという証しがある ―
忘れない・・そして伝えていく　　ワッカの日記より

アライグマについて知ってみよう。

特徴
- 手先が器用
- 木登りが得意
- 水辺を好む
- 成長するにつれて気性が荒くなる。



活動の歩み 2011年 6月~10月

平成23年度 旭川市の協働街づくり事業に企画提案した"人と野生生物がともに健康にくらせる街づくり"が採択され旭川市より助成をいただくことになり活動がより一層広げられることになり活動をしています。

○6月18 19日 緑の回廊展

○7月20日 パネルシアターの訪問活動スタートしました。
北海道教育大学附属幼稚園

○8月23日 体験型里モト総合学習会
旭山動物園で飼育展示係の方による身近な生き物の解説や旭山公園にて自然観察会など体験を通した学習会に、旭川市東光小学校4学年の児童の皆さん102名が参加しました。

体験型
総合学習会

○9月10日 外来種アズマヒキガエルを捕まえて学ぶ会

○9月17日 永山新川にて自然観察会、清掃活動、水生生物による水質調査を旭川河川事務所の協力のもと行いました。

○9月18日 外来種 アライグマを捕まえて学ぶ会

○9月30日 パネルシアター訪問活動
旭川市北星保育所

○10月9日 「野生動物への餌やりによる環境問題社会問題、人と野生生物の関わりについて」永山新川にて自然観察会と学習パネルの作成へフェンス「生き物思いやり線」に設置とフェンスの移動を行ないました。

勉強会

○10月12日 パネルシアター訪問活動
旭川市こまどり保育所

○10月26日 パネルシアター訪問活動
旭川市新旭川保育所

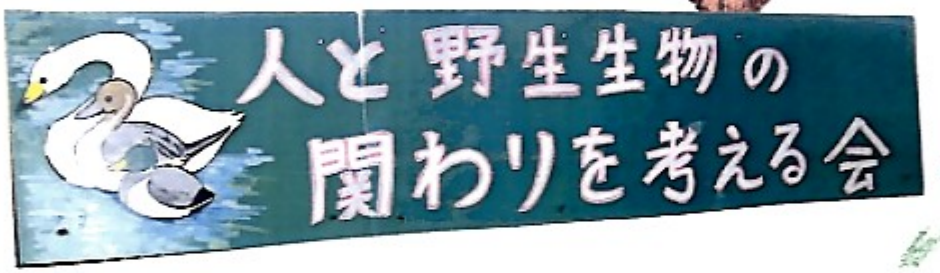
パネルシアター

開催します。2012年2月25日(土)

聴いて考えるフォーラム

かけがえのない一つの地球

つながっている一つの健康



人と野生生物の関わりを通して身近に起こっている環境問題や社会問題を考えます。専門家を迎え、野鳥と高病原性鳥インフルエンザ、アザラシと漁業、山・川・海のつながりなどをテーマにかけがえのない一つの地球？つながっている一つの健康？について市民と共に考えるフォーラムです。パネルシアター"楽しく学ぼう野生生物"も行ないます。

詳しい内容については次回の会報誌，旭山動物園のホームページの"旭山動物園の取組"の紹介でお知らせします。